

平成 30 年度  
廃棄物処理センター環境影響評価  
事後調査結果のあらまし

平成 31 年 3 月

一般財団法人三重県環境保全事業団



## はじめに

本あらましは、一般財団法人三重県環境保全事業団廃棄物処理センター事業（最終処分場事業）の実施にあたり、「廃棄物処理センター建設計画に係る環境影響評価書（平成 12 年 8 月）」及び「廃棄物処理センター建設計画に係る環境影響評価書検討報告書（平成 20 年 7 月）」（以下、「評価書」及び「検討書」という。）に示した環境保全対策を図るために実施することとした事後調査のうち、平成 30 年度に実施した調査結果の概要をとりまとめたものです。



# 目 次

<b>1. 事業概要及び調査概要</b> .....	<b>1</b>
1-1 事業概要.....	1
1-1-1 事業主体、住所及び代表者 .....	1
1-1-2 指定事業の名称、種類、規模及び実施場所 .....	1
1-1-3 事業の進捗状況 .....	1
1-2 調査概要.....	3
<b>2. 最終処分場供用後に係る調査結果</b> .....	<b>4</b>
2-1 大気質（粉じん：SPM） .....	4
2-2 悪 臭 .....	4
2-3 環境騒音・振動.....	5
2-4 河川水の水質.....	5
2-5 地下水の水質.....	9
2-5-1 地下水（モニター井戸） .....	9
2-5-2 地下水（処分場地下水集排水） .....	10
2-6 浸出水処理水.....	11
<b>3. 動植物に係る調査結果</b> .....	<b>12</b>
3-1 陸生動物.....	12
3-1-1 特筆すべき動物 .....	12
3-2 水生生物.....	13
3-2-1 特筆すべき水生生物 .....	13
3-2-2 水生生物（淡水魚類） .....	13
3-3 陸生植物.....	16
3-3-1 植物相 .....	16
<b>4. 調査地点</b> .....	<b>17</b>



# 1

## 事業概要及び調査概要

### 1-1

#### 事業概要

##### 1-1-1 事業主体、住所及び代表者

事業主体：一般財団法人三重県環境保全事業団

住 所：三重県津市河芸町上野 3258 番地

代 表 者：理事長 高 沖 芳 寿

##### 1-1-2 指定事業の名称、種類、規模及び実施場所

事業の名称：廃棄物処理センター事業

事業の種類：産業廃棄物最終処分場（管理型）の設置

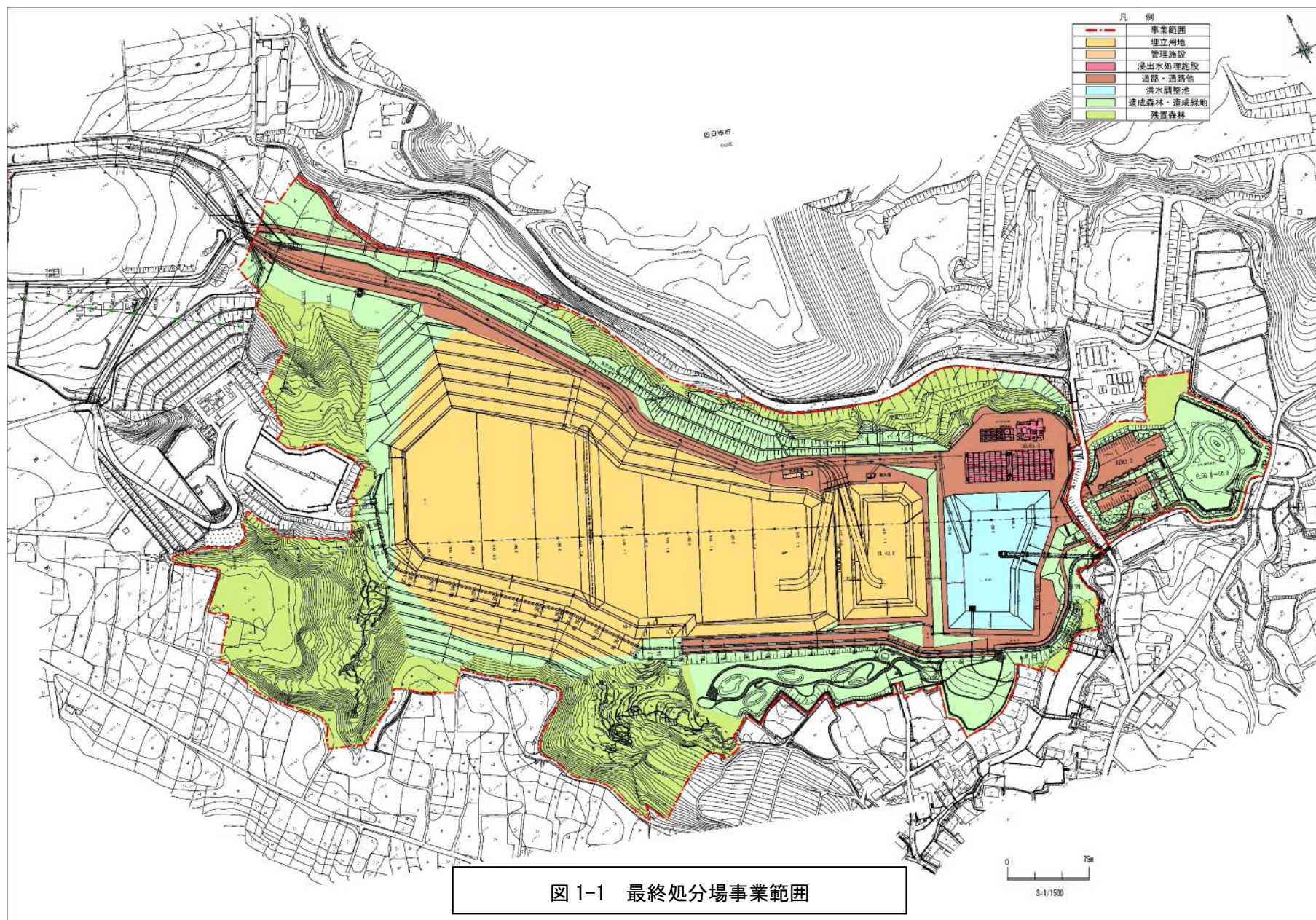
事業の規模：最終処分場 285,200m<sup>2</sup> 埋立総容量 1,672,000m<sup>3</sup>

実 施 場 所：四日市市小山町地内

##### 1-1-3 事業の進捗状況

最終処分場は、平成22年8月より建設工事に着手し、平成24年12月より供用を開始しました。

（事業範囲は図1-1のとおり）





1-2	調査概要
-----	------

調査項目、調査年月及び調査の進捗は表 1-1 に示したとおりです。

表 1-1 調査項目及び調査年月

項 目		年度 月	平成30年度											
			4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月
事業	最終処分場		稼働中											
環境影響評価事後調査	最終処分場供用後に係る調査	① 粉じん（SPM）	●			●			●			●		
		② 悪 臭		●			●			●		●		
		③ 環境騒音・振動		●			●			●		●		
		④ 河川水の水質	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		⑤ 地下水（モニター井戸）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		⑥ 地下水（処分場地下水集排水）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		⑦ 浸出水処理水	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	動植物に係る調査	⑧ 特筆すべき動物	●	●		●	●					●	●	●
		⑨ 特筆すべき水生生物				●								
		⑩ 水生生物（淡水魚類）		●			●			●			●	
		⑪ 植物相					●							

## 2

## 最終処分場供用後に係る調査結果

### 2-1

### 大気質（粉じん：SPM）

事業の実施に伴う粉じんの影響を把握するため、最終処分場区域に隣接する集落近傍 2 地点において浮遊粒子状物質（SPM）の調査を実施しました。

その結果、表 2-1 に示したとおりいずれも環境基準を下回る値でした。

表 2-1 最終処分場供用時大気質調査結果

項 目		SPM (mg/m <sup>3</sup> )	
環境基準	1 時間値の 1 日平均値	0.10 以下	
	1 時間値	0.20 以下	
調査年月日	地 点	No.1	No.2
平成 30 年 4 月 25 日	日平均値	0.008	0.005
	1 時間値の最大値	0.034	0.018
平成 30 年 7 月 10 日	日平均値	0.015	0.009
	1 時間値の最大値	0.047	0.033
平成 30 年 10 月 3 日	日平均値	0.026	0.004
	1 時間値の最大値	0.097	0.026
平成 31 年 1 月 9 日	日平均値	0.007	0.009
	1 時間値の最大値	0.026	0.032

※環境基準：「大気の汚染に係る環境基準について」（昭和 48 年環告 25）

### 2-2

### 悪 臭

最終処分場敷地境界に設定した 3 地点（No.1～No.3）で各季（春季、夏季、秋季、冬季）に調査を実施しました。

その結果、いずれの地点も特定悪臭物質は検出されませんでした。

また、人の嗅覚により試験を行う臭気指数についても、全ての調査地点で 10 未満でした。

## 2-3

## 環境騒音・振動

事業の実施に伴う騒音・振動の影響を把握するため、最終処分場区域周辺 2 地点で環境騒音・環境振動の調査を実施しました。

環境騒音の騒音レベル ( $L_{Aeq}$ ) 調査結果は表 2-2 に示したとおりで、春季 No. 1 の夜間、夏季 No. 1 の昼間にやや高い値がみられましたが、これはカエルやセミの鳴き声によるものでした。

環境振動は、全ての時期・地点で 30dB 未満（測定機器の保証最低値 30dB）でした。

表 2-2 環境騒音調査結果

(単位：dB(A))

地点	調査時期 時間区分	春季	夏季	秋季	冬季
No.1	昼 間	51	54	46	50
	夜 間	54	48	43	43
No.2	昼 間	51	48	44	46
	夜 間	51	49	39	41

## 2-4

## 河川水の水質

最終処分場区域の下流 4 地点 (No.1～4) において、河川水の水質調査を実施しました。

調査結果のうち、主な項目及び昨年度の結果は表 2-3 に、地点ごとの調査結果及び地点の位置関係を示した模式図は図 2-1 に示したとおりです。

昨年度の調査結果と比べてみると、各地点のいずれの項目とも昨年度と概ね同程度の値でした。

表に示した項目以外の項目（健康項目等）については、昨年度の調査結果と同程度又は定量下限値未満でした。

なお、No.3（内山町地内）地点については、各季 1 回（春季・夏季・秋季・冬季）の調査結果です。

表 2-3 (1) 主な項目の調査結果 (No.1、2)

	単位	No.1		No.2	
		平成30年度 事後調査	平成29年度 事後調査	平成30年度 事後調査	平成29年度 事後調査
水素イオン 濃度 (pH)	—	7.7 (7.3～7.9)	7.3 (6.9～7.6)	7.9 (7.6～9.0)	7.6 (7.1～8.3)
生物化学的酸 素要求量 (BOD)	mg-O/L	0.6 (<0.5～1.1)	0.5 (<0.5～0.6)	0.7 (<0.5～1.9)	1.3 (<0.5～9.1)
化学的酸素要 求量 (COD)	mg-O/L	2.8 (1.7～3.9)	2.6 (1.4～3.5)	3.2 (1.7～4.9)	3.6 (2.3～11)
浮遊物質量 (SS)	mg/L	1.9 (<1.0～4.5)	1.2 (<1.0～1.6)	1.9 (<1.0～4.4)	1.3 (<1.0～1.9)
全窒素 (T-N)	mg-N/L	7.5 (6.3～8.9)	8.3 (6.7～12)	7.9 (6.6～9.2)	8.8 (6.4～15)
全磷 (T-P)	mg-P/L	0.026 (0.015～0.036)	0.025 (0.011～0.042)	0.029 (0.014～0.060)	0.026 (0.012～0.045)

注：表中の数字は「平均値（最小値～最大値）」を示す。

表 2-3 (2) 主な項目の調査結果 (No.3、4)

	単位	No.3 (内山町地内)		No.4 (八王子町地内)	
		平成30年度 事後調査	平成29年度 事後調査	平成30年度 事後調査	平成29年度 事後調査
水素イオン 濃度 (pH)	—	7.8 (7.6～8.0)	7.5 (7.4～7.6)	7.8 (7.2～8.8)	7.5 (7.2～8.1)
生物化学的酸 素要求量 (BOD)	mg-O/L	0.6 (<0.5～0.8)	0.6 (<0.5～0.9)	0.8 (<0.5～1.1)	0.7 (<0.5～0.9)
化学的酸素要 求量 (COD)	mg-O/L	3.0 (2.6～3.6)	3.4 (2.7～5.0)	3.1 (2.2～3.6)	3.4 (2.5～4.0)
浮遊物質量 (SS)	mg/L	1.2 (<1.0～1.5)	<1.0	2.0 (<1.0～4.7)	1.5 (<1.0～3.3)
全窒素 (T-N)	mg-N/L	7.5 (6.5～8.1)	8.0 (6.7～10)	5.6 (4.7～6.5)	6.0 (4.6～7.8)
全磷 (T-P)	mg-P/L	0.026 (0.016～0.037)	0.027 (0.011～0.038)	0.031 (0.024～0.042)	0.036 (0.022～0.050)

注 1：表中の数字は「平均値（最小値～最大値）」を示す。

注 2：No.3 は春季（5月）・夏季（8月）・秋季（11月）・冬季（2月）の結果。

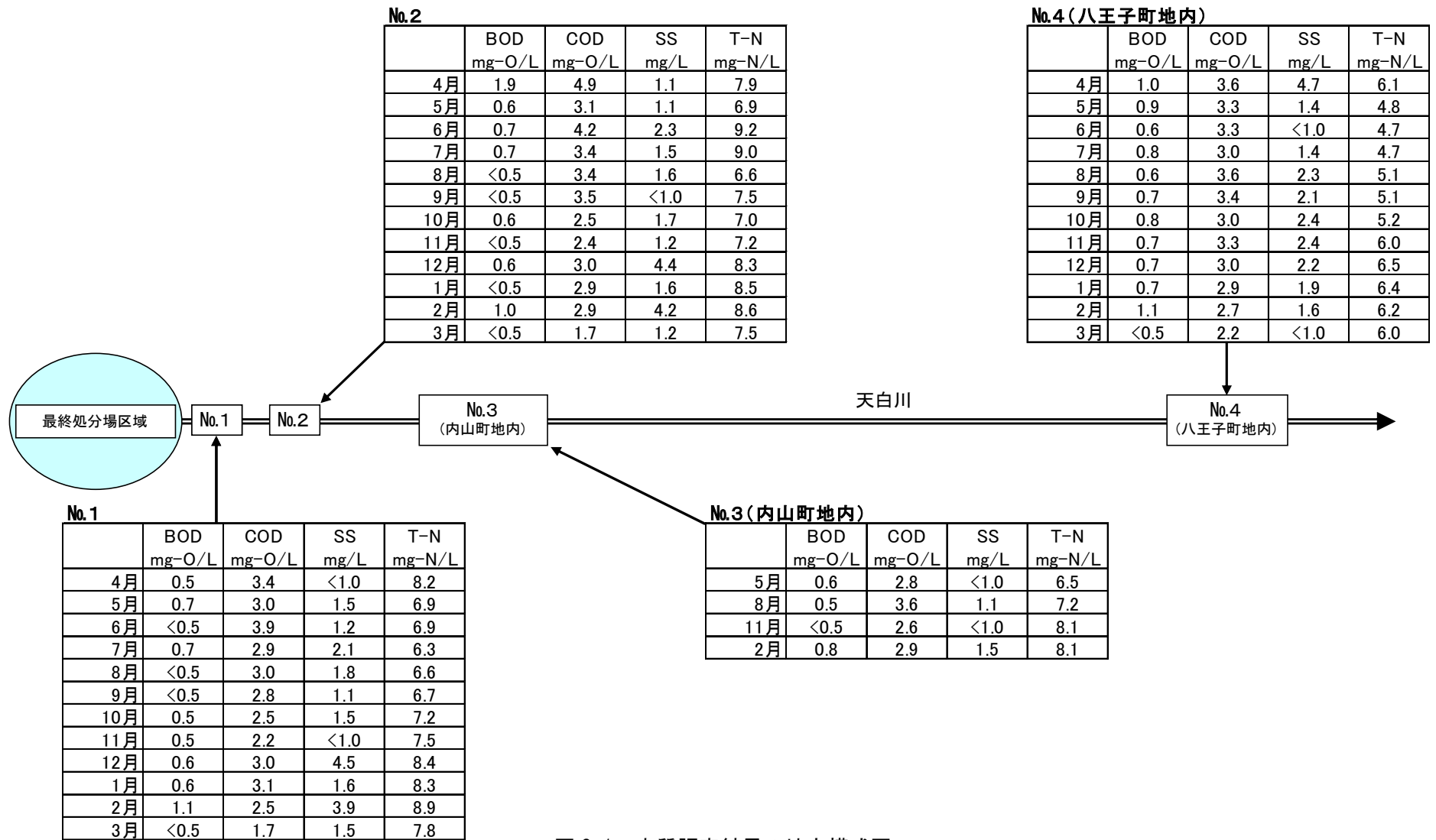


図 2-1 水質調査結果の地点模式図

また、環境ホルモンのうち、夏季及び冬季にダイオキシン類の調査を実施しました。

ダイオキシン類は、表 2-4 に示したとおり昨年度と概ね同程度の値でした。

また、表 2-5 に示したとおり、三重県が公表した平成 29 年度調査の平均値と比べてみると、全ての地点で県の平均値を下回る値でした。

ダイオキシン類以外の環境ホルモンは、表 2-6 に示したとおりビスフェノール A が No.4 で検出されましたが、その他の地点及び項目は定量下限値未満でした。

表 2-4 ダイオキシン類調査結果

(単位：pg-TEQ/L)

地 点	事後調査			三重県の調査結果※ (県内 53 地点)
No.1	平成 30 年度	夏季	0.12	0.33 (0.024～1.7)
No.2			0.13	
No.3			0.12	
No.4			0.11	
No.1		冬季	0.089	
No.2			0.091	
No.3			0.073	
No.4			0.065	
No.1	平成 29 年度	夏季	0.090	
No.2			0.093	
No.3			0.15	
No.4			0.13	
No.1		冬季	0.077	
No.2			0.081	
No.3			0.070	
No.4			0.070	

注 1: ダイオキシン類の水質の汚濁に係る環境基準は、「1 pg-TEQ/L 以下 (環境庁告示第 68 号、平成 11 年 12 月 27 日)」。水質の汚濁に係る環境基準は河川水等の公共用水域及び地下水に適用される。

注 2: 三重県の調査結果は、「平成 29 年度のダイオキシン類環境調査等結果 (環境生活部大気・水環境課、平成 30 年 11 月 13 日)」で、値は各地点の年平均値の「平均値 (最小値～最大値)」。

※三重県の調査結果については、例年、夏季及び冬季の「平均値 (最小値～最大値)」と比較をしていたが、平成 29 年度の結果は、夏季及び冬季の平均値は公表されていないため、年平均値の比較とすることとした。

表 2-5 ダイオキシン類調査結果 (年平均値)

(単位：pg-TEQ/L)

地点	平成 30 年度 事後調査	平成 29 年度 事後調査	三重県の調査結果 (53 地点の年平均値)
No.1	0.10	0.084	0.33 (0.024～1.7)
No.2	0.11	0.087	
No.3	0.097	0.11	
No.4	0.088	0.10	

注: 三重県の調査結果は、「平成 29 年度のダイオキシン類環境調査等結果 (環境生活部大気・水環境課、平成 30 年 11 月 13 日)」で、値は年間の「平均値 (地点別平均値の最小値～最大値)」。

表 2-6 環境ホルモン調査結果（ダイオキシン類以外の検出された項目のみ）

物質名	単位	No.1		No.2		No.4	
		平成 30 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 29 年度
ビスフェノール A	μ g/L	<0.01	0.15	<0.01	0.16	0.12	0.40

## 2-5

## 地下水の水質

## 2-5-1 地下水（モニター井戸）

最終処分場区域内のモニター井戸 3 地点（No.A、No.B、No.C）において、水質調査を実施しました。  
その結果、主な項目を抜粋して表 2-7 に示しました。

表 2-7 主な項目の調査結果

項 目	単 位	No.A	No.B	No.C
外 観	—	殆ど透明	殆ど透明	殆ど透明
気 温	℃	20.2 (5.0～36.5)	20.0 (5.0～35.8)	20.2 (5.0～36.2)
水 温	℃	16.7 (16.3～17.0)	17.7 (17.3～18.0)	17.2 (16.8～17.9)
p H	—	5.8 (5.6～5.9)	5.9 (5.7～6.2)	6.1 (5.9～6.3)
B O D	mg-O/L	<0.5	<0.5	<0.5
C O D (M n)	mg-O/L	<0.5	<0.5	<0.5
浮遊物質 (S S)	mg/L	<1.0	<1.0	<1.0
全窒素 (T-N)	mg-N/L	8.2 (8.0～8.8)	7.6 (7.2～8.1)	6.3 (6.0～6.9)
全 磷 (T-P)	mg-P/L	0.010 (0.008～0.013)	0.004 (<0.003～0.008)	0.006 (<0.003～0.010)
電気伝導率	mS/m	18 (17～19)	22 (20～24)	29 (27～31)
塩化物イオン	mg/L	22 (20～24)	23 (20～29)	35 (31～41)

※値は「平均値（最小値～最大値）」。

冬季にはダイオキシン類を含む環境ホルモンの調査を実施しました。

ダイオキシン類の調査結果は全地点とも 0.057pg-TEQ/L であり、環境基準（1pg-TEQ/L 以下）を大きく下回る値でした。

また、表 2-8 に示したとおり、三重県が平成 29 年度に実施した調査結果と比べてみると、全ての地点で県の平均値と概ね同程度の値でした。

その他の環境ホルモンでは、全て定量下限値未満でした。

表 2-8 ダイオキシン類調査結果

物質名	単 位	平成 30 年度事後調査			三重県の調査結果 (県内 9 地点)
		No.A	No.B	No.C	
ダイオキシン類	pg-TEQ/L	0.057	0.057	0.057	0.046 (0.025～0.078)

注 1：ダイオキシン類の水質の汚濁に係る環境基準は、「1 pg-TEQ/L 以下（環境庁告示第 68 号、平成 11 年 12 月 27 日）」。

水質の汚濁に係る環境基準は河川水等の公共用水域及び地下水に適用される。

注 2：三重県の調査結果は、「平成 29 年度のダイオキシン類環境調査等結果（環境生活部大気・水環境課、平成 30 年 11 月 13 日）」で、値は 9 地点の「平均値（最小値～最大値）」。

## 2-5-2 地下水（処分場地下水集排水）

最終処分場内に設置した地下水集排水管で集められた湧水等の状況を把握するため、地下水の水質調査を実施しました。

毎月実施することとした項目の電気伝導率は 18～20mS/m、塩化物イオンは 11～14mg/L で、その他の項目は年 1 回の調査で 1 月に実施しましたが、いずれも定量下限値未満の値でした。



浸出水処理施設において、浸出水が適切に処理されているかを確認するため、処理水の水質調査を実施しました。

その結果、表 2-9 に示したとおり、毎月実施することとした項目の測定結果のうち、基準値のある項目及び管理基準値を設定している項目については、いずれも基準値及び管理基準値を下回る値又は定量下限値未満の値でした。また、その他の項目についても定量下限値未満の値又は低い値でした。

ダイオキシン類については、1 月に実施しましたが、0pg-TEQ/L と基準値（10pg-TEQ/L）を大きく下回る低い値でした。

表 2-9 浸出水処理水調査結果（主な毎月実施項目）

項 目	単位	調査結果	基準値 <sup>注 1)</sup>	管理基準値 <sup>注 2)</sup>
外 観	—	殆ど透明	—	—
気 温	℃	19.5 (6.0～30.0)	—	—
水 温	℃	19.6 (13.0～27.0)	—	—
p H	—	7.6 (7.3～7.9)	5.8～8.6	6.0～8.5
B O D	mg-O/L	0.6 (<0.5～1.4)	60	5
C O D (M n)	mg-O/L	6.6 (1.4～9.0)	90	10
浮遊物質質量 (S S)	mg/L	<1.0	60	5
フェノール類	mg/L	<0.1	5	—
n-ヘキサン抽出物質	mg/L	<0.5	鉱油類 5 動植物油脂類 30	—
銅	mg/L	<0.1	3	—
亜 鉛	mg/L	<0.1	2	—
溶解性鉄	mg/L	<0.5	10	—
溶解性マンガン	mg/L	<0.5	10	—
全クロム	mg/L	<0.05	2	—
ふっ素	mg/L	2.2 (0.8～2.8)	8	—
大腸菌群数 (1cm <sup>3</sup> )	個/cm <sup>3</sup>	0	日間平均 3,000	—
全窒素 (T-N)	mg-N/L	4.2 (0.7～8.8)	120 (日間平均 60)	10
全 磷 (T-P)	mg-P/L	0.06 (0.03～0.10)	16 (日間平均 8)	0.2

※：値は「平均値（最小値～最大値）」。

注 1：基準値は「一般廃棄物の最終処分場及び産業廃棄物の最終処分場に係る技術上の基準を定める省令」に基づく排水基準を表示。

注 2：管理基準値は新小山最終処分場の浸出水処理施設の計画処理水質を表示。

## 3

## 動植物に係る調査結果

## 3-1

## 陸生動物

## 3-1-1 特筆すべき動物

特筆すべき動物の調査はいずれも最終処分場区域内及びその周辺で実施し、結果は表 3-1 に示したとおりです。

表 3-1 特筆すべき動物の調査対象種、調査時期及び調査結果

分 類	種 名	調査時期	調査結果
鳥 類	チュウサギ	平成 30 年 5 月 17 日	確認できませんでした
	オオタカ	平成 30 年 4 月 17 日 平成 31 年 1 月 25 日 平成 31 年 2 月 21 日	3 月調査時に最終処分場の敷地外の東にある鉄塔にとまり、東方へ飛去する雄成鳥を確認しました
	ハイタカ	平成 31 年 3 月 15 日	確認できませんでした
	フクロウ	平成 30 年 4 月 18 日 平成 31 年 1 月 24 日 平成 31 年 2 月 20 日 平成 31 年 3 月 14 日	確認できませんでした
	サンショウクイ	平成 30 年 5 月 17 日	確認できませんでした
	コチドリ		新小山最終処分場場内で幼鳥 2 個体を含む計 7 個体を確認しました
	キビタキ		新小山最終処分場外南側の近傍の森林で 1 個体を確認しました
	タゲリ	平成 31 年 1 月 25 日	確認できませんでした
両生類	アカハライモリ	平成 30 年 7 月 20 日	確認できませんでした
爬虫類	ニホンイシガメ		
昆虫類	ムカシヤンマ	平成 30 年 5 月 28 日	新小山最終処分場西側の残置森林林縁で成虫 2 個体を確認しました
	オオクワガタ	平成 30 年 7 月 20 日 平成 30 年 8 月 7 日	確認できませんでした
	ミカドガガンボ	平成 30 年 5 月 28 日 平成 30 年 7 月 20 日 平成 30 年 8 月 7 日	5 月調査時に新小山最終処分場西側残置森林の林縁で 1 個体を確認しました
	アオメアブ	平成 30 年 7 月 20 日 平成 30 年 8 月 7 日	7 月調査時に、最終処分場事務所周辺で 2 個体、小山処分場跡で 4 個体、新小山最終処分場内で 3 個体、計 9 個体を、8 月調査時に、最終処分場事務所周辺で 2 個体、小山処分場跡で 1 個体、新小山最終処分場内で 1 個体、計 4 個体を確認しました
クモ類	コガネグモ	平成 30 年 5 月 28 日 平成 30 年 7 月 20 日	7 月調査時に、小山処分場跡で 1 個体を確認しました
	アシナガカニグモ	平成 30 年 8 月 7 日	確認できませんでした

## 3-2

## 水生生物

## 3-2-1 特筆すべき水生生物

特筆すべき水生生物の調査は最終処分場区域内及びその周辺の 7 地点で実施し、結果は表 3-2 に示したとおりです。

表 3-2 特筆すべき水生生物の調査対象種、調査時期及び調査結果

種 名	調査時期	調査結果
ヒラマキミズマイマイ	平成 30 年 7 月 9 日	確認できませんでした
ヒラマキガイモドキ		4 ヶ所で生息を確認しました
ナガオカモノアラガイ		2 ヶ所で生息を確認しました
マシジミ		7 ヶ所で生息を確認しました
ドブシジミ		3 ヶ所で生息を確認しました
コオイムシ		確認できませんでした

## 3-2-2 水生生物（淡水魚類）

最終処分場区域内を流れる天白川（P. 1、P. 2、P. 3 の調査地点）において淡水魚類調査を平成 30 年 5 月 18 日（春季）、8 月 1 日（夏季）、11 月 14 日（秋季）、平成 31 年 2 月 6 日（冬季）に実施し、結果は表 3-3 に示したとおりです。

今回の調査結果を昨年度（表 3-4 参照）の結果と比較すると、昨年度確認されたメダカが確認されなかった一方で、昨年度確認されなかったギンブナ及びモツゴが今回の調査では確認され、出現種数は 6 種と昨年度（5 種）よりやや多い結果となりました。

なお、今年度の調査でも、昨年度の調査と引き続き、夏季の P. 3 でのカゴ網調査及びセルビン調査において、例年よりも多い個体数が確認されました。

また、今年度の調査では、冬季の P. 3 でのカゴ網調査及びセルビン調査において、例年よりも多い個体数が確認されました。

表 3-3(1) 淡水魚類調査結果（平成 30 年度）

調査方法	種 名	春季(H30. 5. 18)			夏季(H30. 8. 1)		
		調査地点					
		P. 1	P. 2	P. 3	P. 1	P. 2	P. 3
カゴ網	カワムツ	16	捕獲なし		捕獲なし		
	オイカワ						4
	カワヨシノボリ					1	1
	種 数	1				1	2
	個体数	16				1	5
セルビン	カワムツ	3	3	捕獲なし	捕獲なし		
	オイカワ					1	85
	種 数	1	1			1	1
	個体数	3	3			1	85
タモ網	カワムツ						○
	オイカワ						○
	モツゴ			○			
	タモロコ			○			
	カワヨシノボリ	○	○	○	○	○	○
	種 数	1	1	3	1	1	3

注：タモ網による捕獲個体数は、その作業量に比例して多くなるため、種類のみの確認とした。

表 3-3(2) 淡水魚類調査結果（平成 30 年度）

調査方法	種 名	秋季 (H30. 11. 14)			冬季 (H31. 2. 6)		
		調査地点					
		P. 1	P. 2	P. 3	P. 1	P. 2	P. 3
カゴ網	カワムツ	捕獲なし			捕獲なし		2
	オイカワ						45
	種 数						2
	個体数						47
セルビン	カワムツ		捕獲なし		捕獲なし		3
	オイカワ						16
	カワヨシノボリ	2					
	種 数	1					2
	個体数	2					19
タモ網	ギンブナ						○
	カワムツ					○	○
	オイカワ	○	○	○		○	○
	モツゴ						○
	タモロコ			○			○
	カワヨシノボリ	○	○	○	○	○	○
	種 数	2	2	3	1	3	6

注：タモ網による捕獲個体数は、その作業量に比例して多くなるため、種類のみの確認とした。

表 3-4(1) 淡水魚類調査結果（参考：平成 29 年度）

調査方法	種 名	春季(H29. 5. 17)			夏季(H29. 8. 2)		
		調査地点					
		P. 1	P. 2	P. 3	P. 1	P. 2	P. 3
カゴ網	カワムツ	捕獲なし			4	捕獲なし	15
	オイカワ			1			
	種 数			1	1		1
	個体数			1	4		15
セルビン	オイカワ	捕獲なし				1	84
	カワヨシノボリ				1		
	種 数				1	1	1
	個体数				1	1	84
タモ網	カワムツ	○			○	○	
	オイカワ			○			
	タモロコ						○
	カワヨシノボリ		○	○	○	○	○
	メダカ			○			
	種 数	1	1	3	2	2	2

注：タモ網による捕獲個体数は、その作業量に比例して多くなるため、種類のみの確認とした。

表 3-4(2) 淡水魚類調査結果（参考：平成 29 年度）

調査方法	種 名	秋季 (H29. 11. 21)			冬季 (H30. 2. 7)		
		調査地点					
		P. 1	P. 2	P. 3	P. 1	P. 2	P. 3
カゴ網	カワムツ	捕獲なし			捕獲なし		
	オイカワ						
	種 数						
	個体数						
セルビン	オイカワ	捕獲なし			捕獲なし		
	カワヨシノボリ						
	種 数						
	個体数						
タモ網	カワムツ	○		○	○		○
	オイカワ						
	タモロコ			○			
	カワヨシノボリ	○	○	○	○	○	○
	メダカ						
	種 数	2	1	3	2	1	2

注：タモ網による捕獲個体数は、その作業量に比例して多くなるため、種類のみの確認とした。

## 3-3-1 植物相

最終処分場の供用に伴い、最終処分場区域内に回復緑地として整備した緑地の状況及び残存緑地とした区域の状況を把握するため、平成 30 年 8 月 14 日に調査を実施しました。

本調査は施設供用後より事業の実施期間中、継続して監視するもので、今回は 6 年目の調査になります。

その結果、回復緑地については、昨年度と概ね同様の傾向であり、生育状況の悪い個体がやや多くみられましたが、一部には順調に生育している個体もみられました。一方、残存緑地については、各植物種は概ね良好な生育状況でしたが、カシノナガキクイムシの食害に起因するとみられるナラ枯れを生じたコナラが立ち枯れしている状況が続いていました。その他の状況としては、林縁部にみられる多様な先駆樹や、その下層に生育するアラカシ等の稚樹の生長は継続しており、緑地は概ね維持されているものと考えられます。

調査は次年度以降も継続し、植物相の変化を監視していくこととします。

## 4

## 調査地点

本あらましに示した調査項目の調査地点について、主なものを以下に示しました。

最終処分場供用後に係る大気質・悪臭の調査地点は図 4-1 に、環境騒音・振動の調査地点は図 4-2 に、河川水の調査地点は図 4-3 に、地下水（モニター井戸・処分場地下水集排水）の調査地点は図 4-4 に、浸出水处理水の調査地点は図 4-5 に、動植物に係る調査のうち、動物相（鳥類相）の踏査ルートは図 4-6 に、特筆すべき動物の調査地点及び調査範囲は図 4-7 に、特筆すべき水生生物の調査地点は図 4-8 に、淡水魚類の調査地点は図 4-9 に、植物相の調査地点は図 4-10 に示したとおりです。



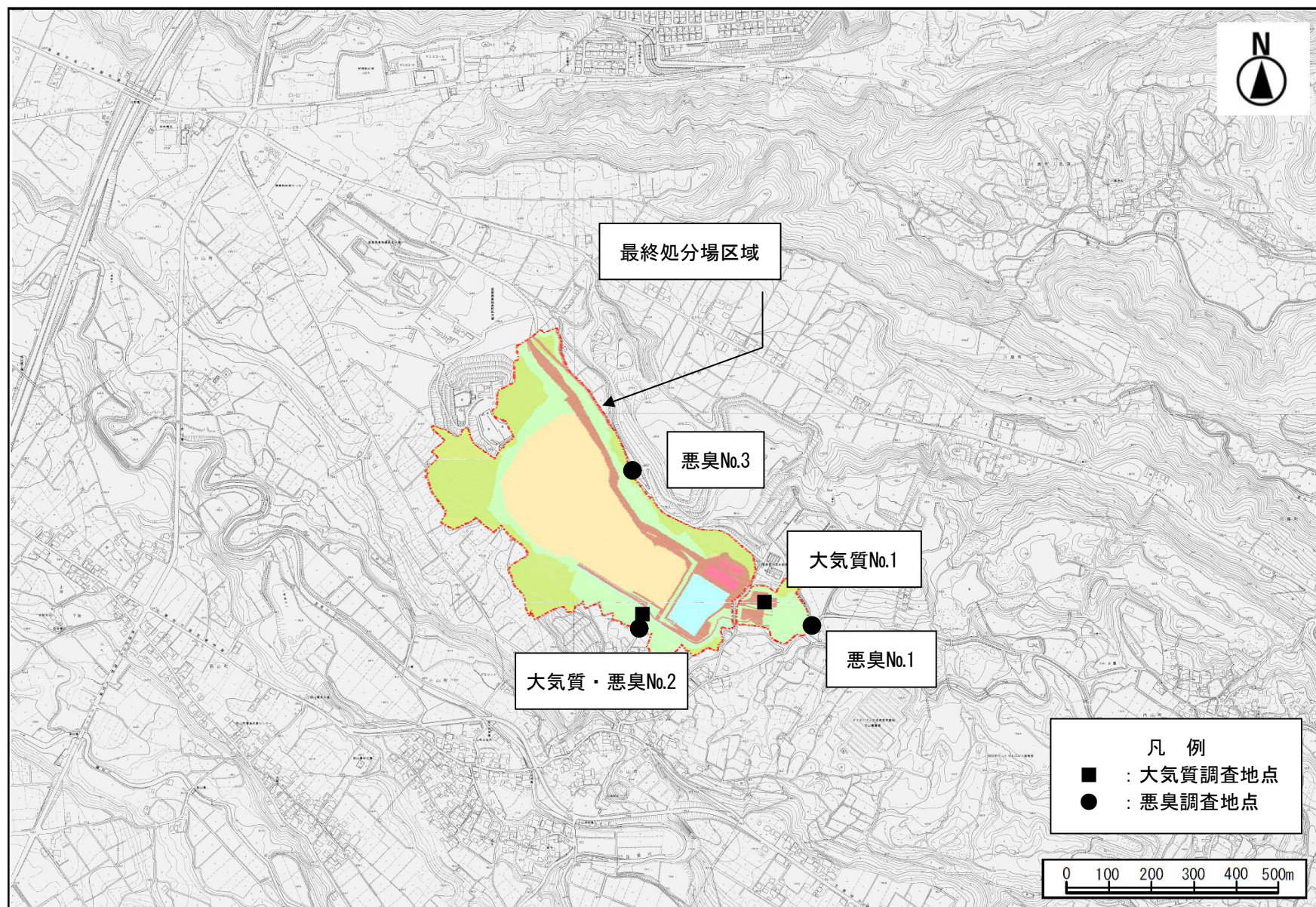


図 4-1 大気質・悪臭調査地点



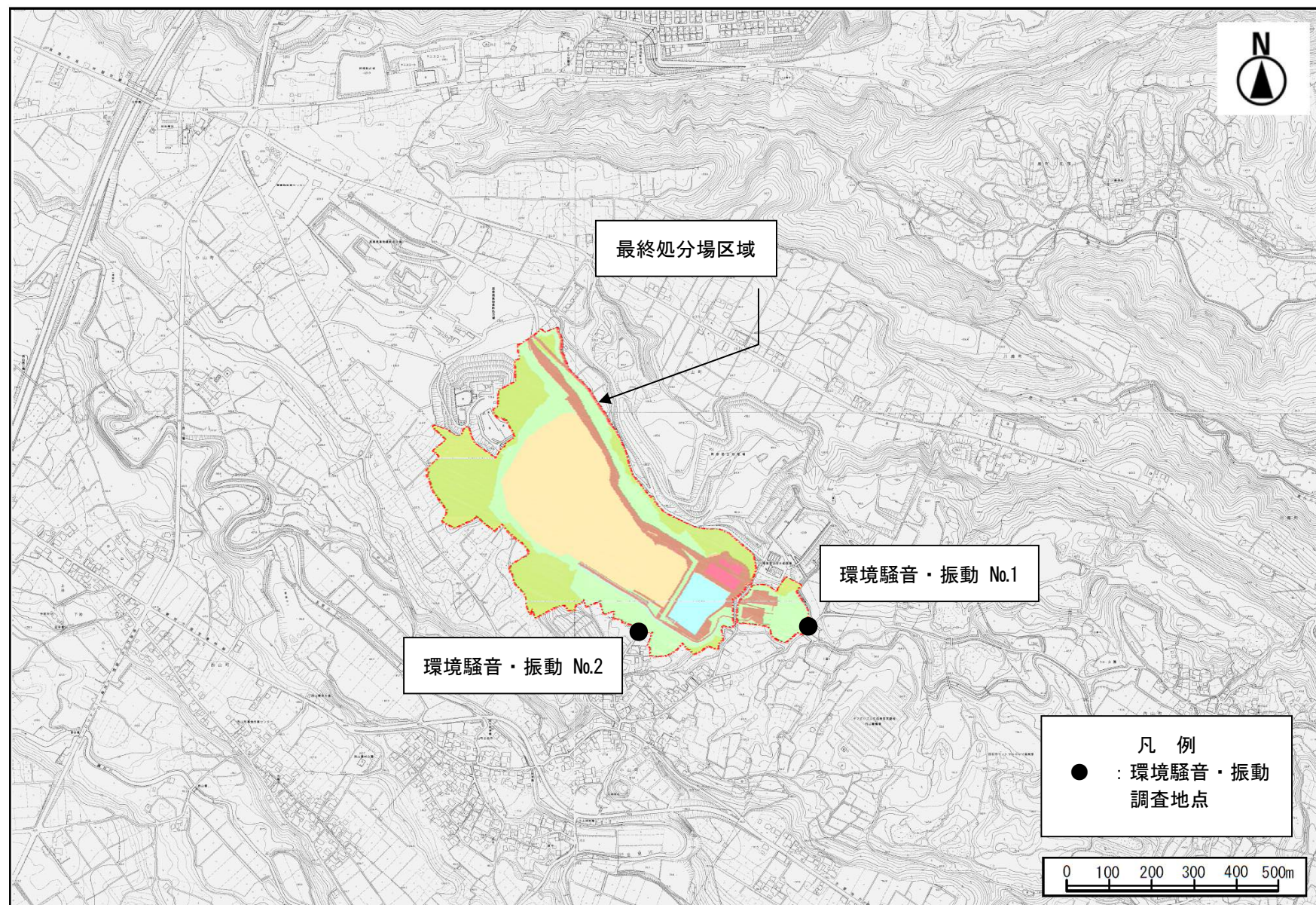


図 4-2 環境騒音・環境振動調査地点



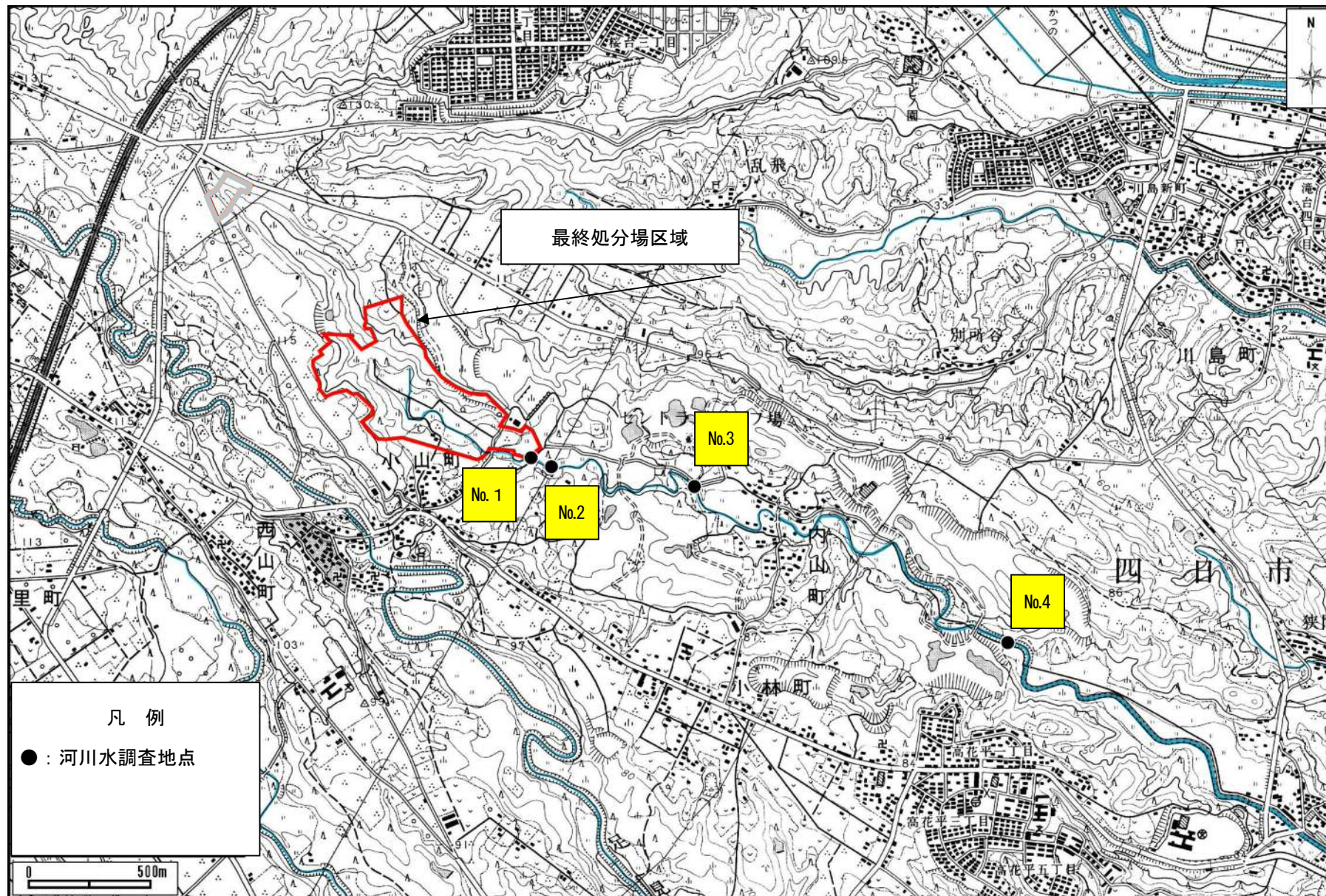


图 4-3 河川水調査地点



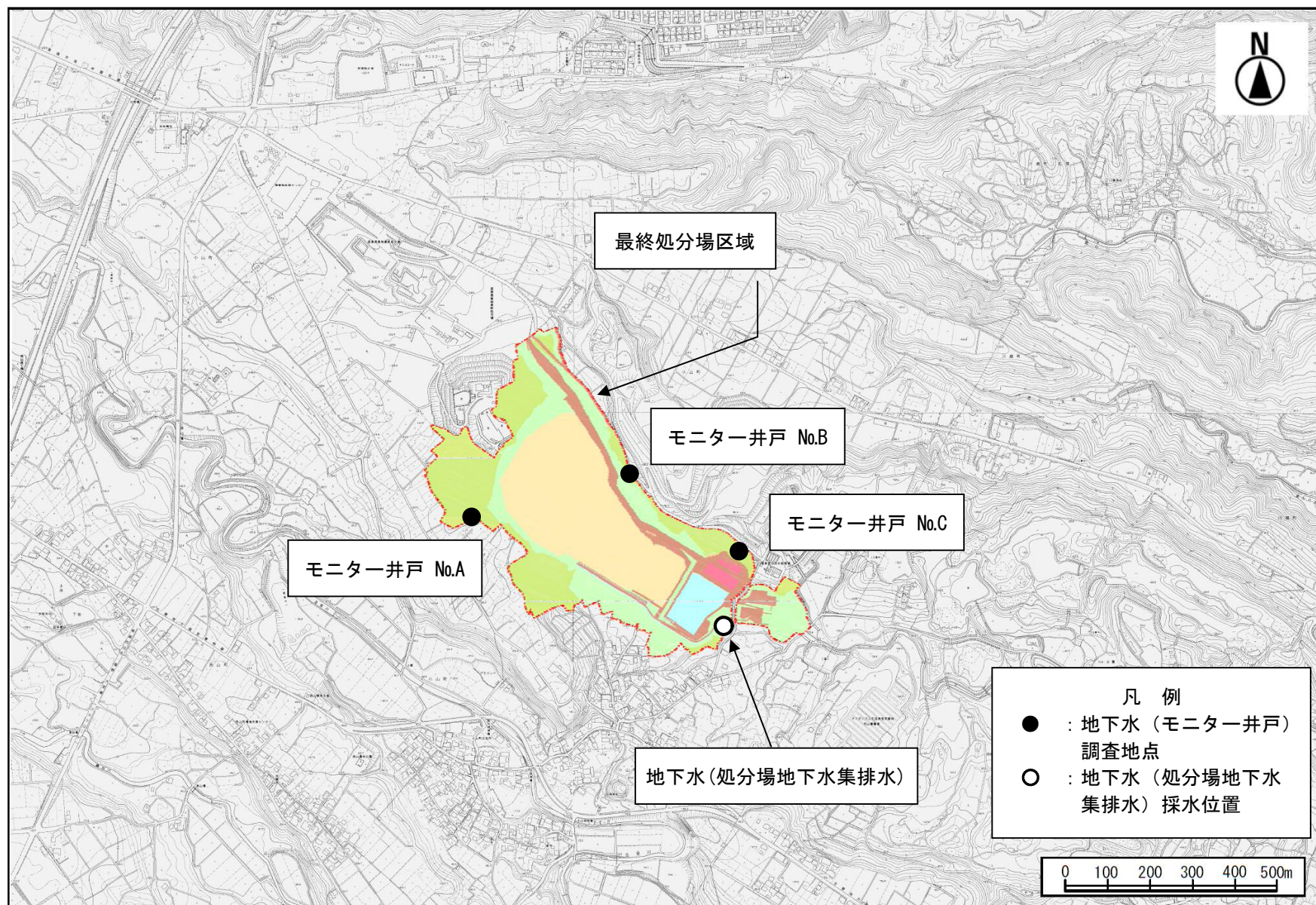


図 4-4 地下水(モニター井戸・処分場地下水集排水)調査地点



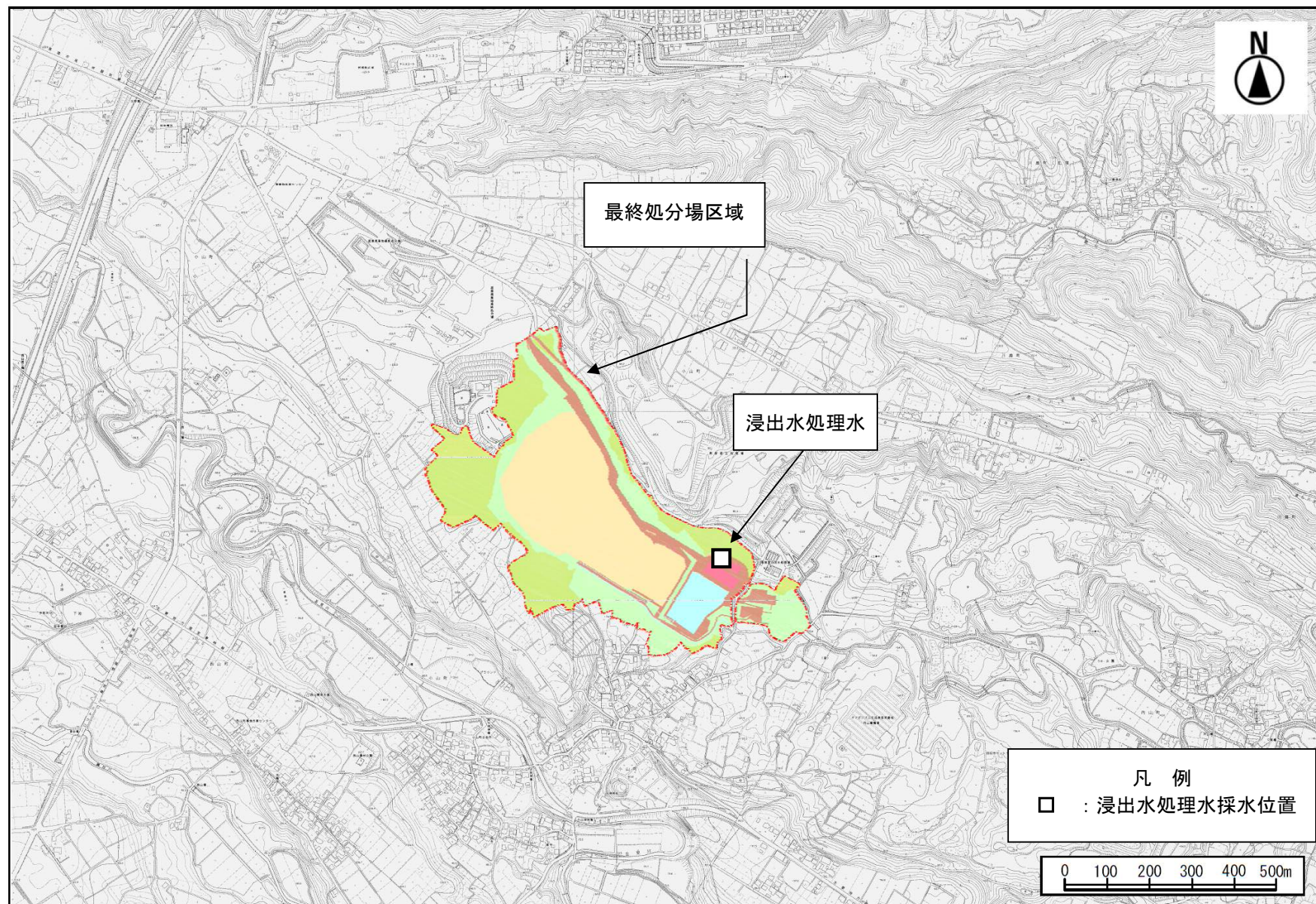


图 4-5 浸出水処理水調査地点



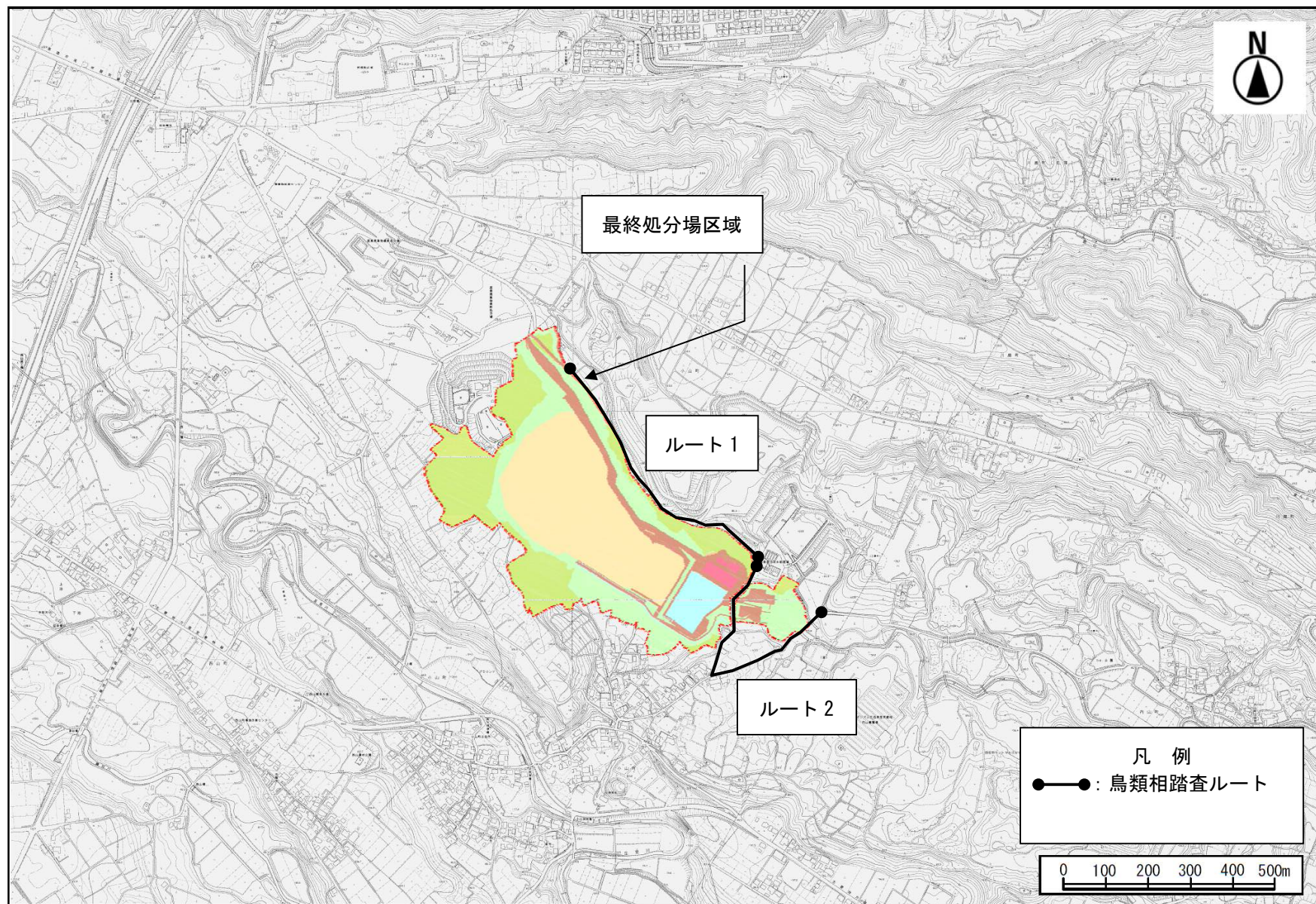


図 4-6 動物相（鳥類相）踏査ルート



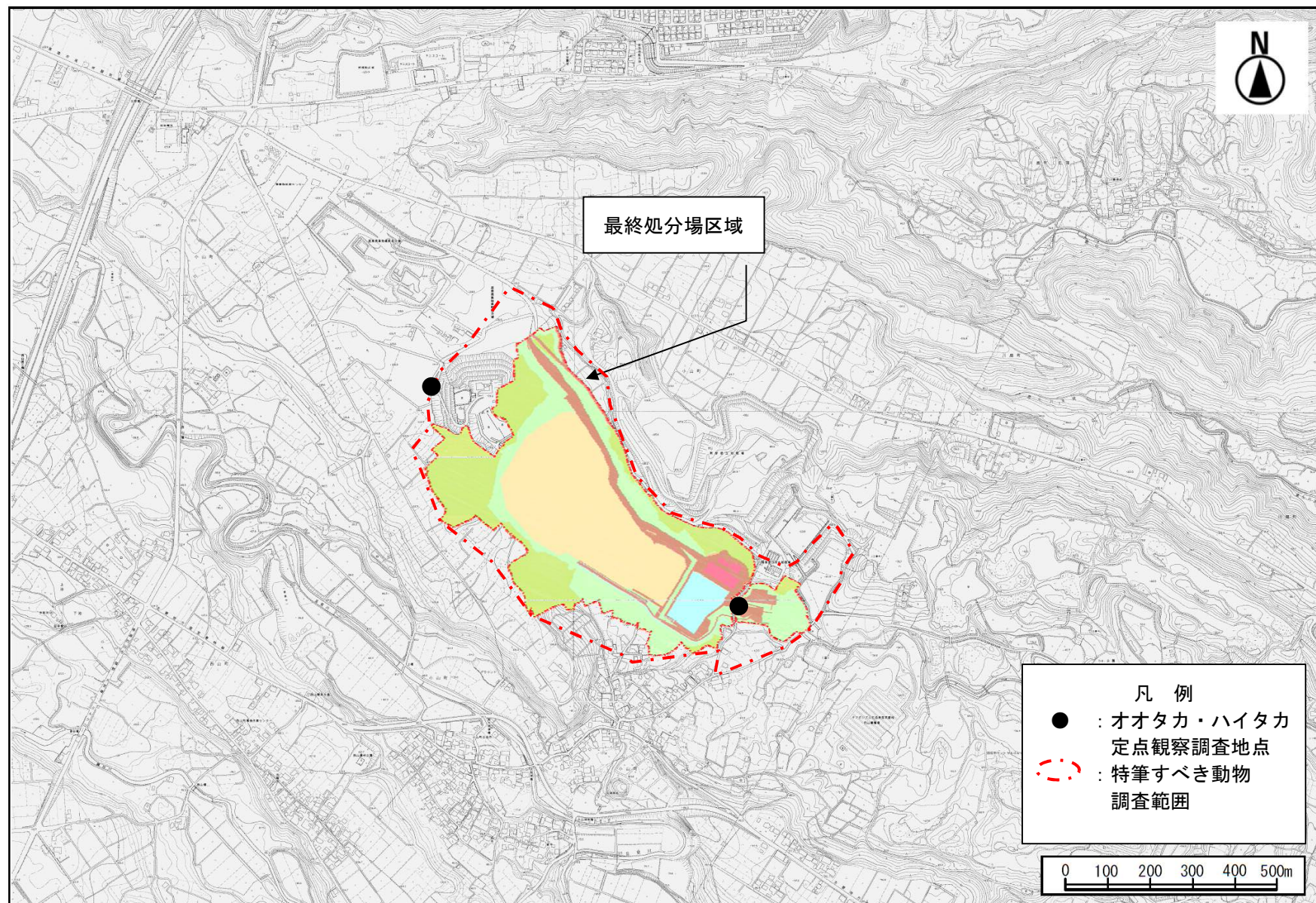


図 4-7 特筆すべき動物調査地点及び調査範囲



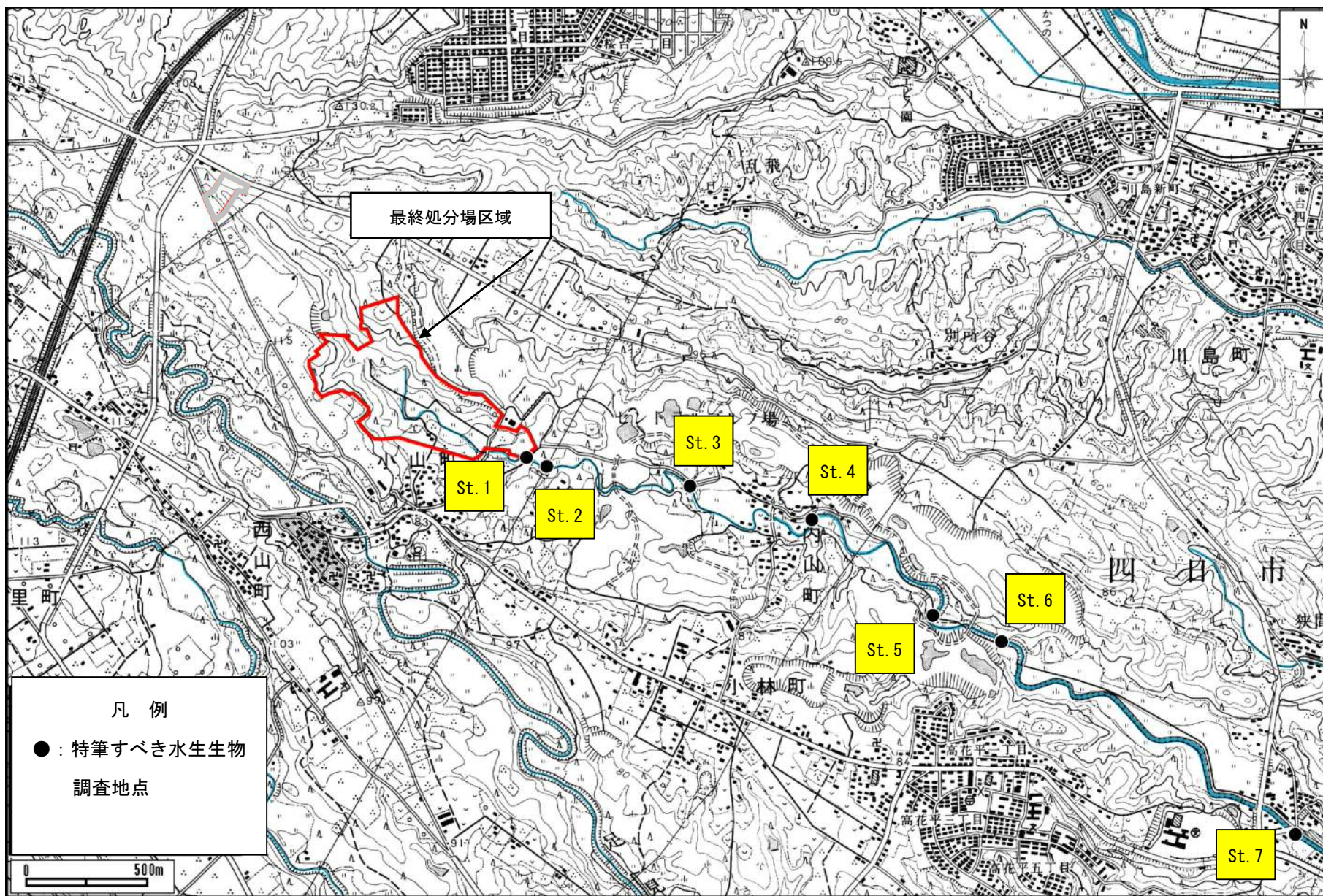


図 4-8 特筆すべき水生生物調査地点



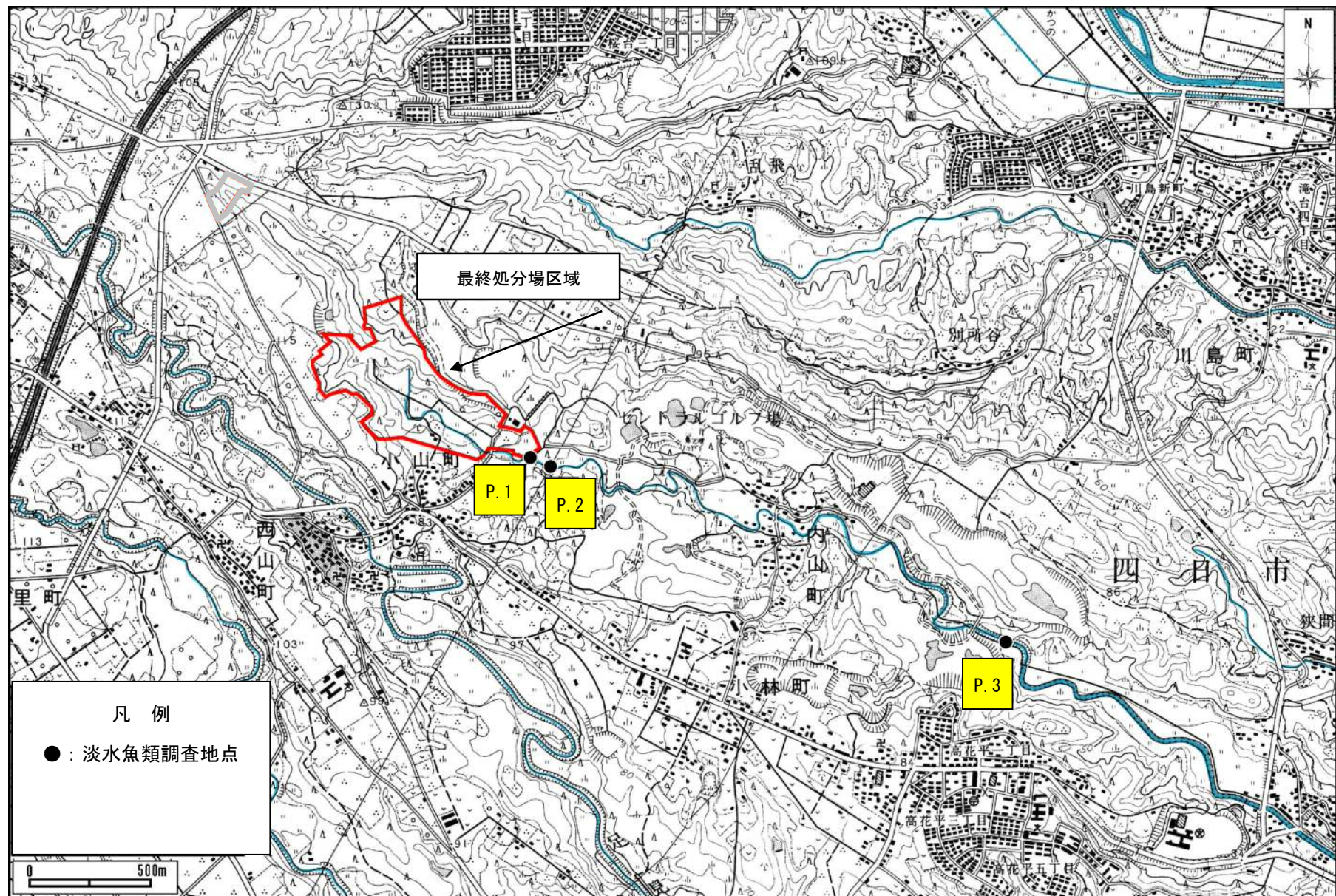


図 4-9 淡水魚類調査地点



